

日本財団収蔵の美術作品 550 件を受贈

滋賀県立美術館が質・量ともに世界有数・日本最大級の
アール・ブリュット・コレクションを擁する美術館に！

8/18(金)
目録贈呈式

このたび、日本財団が収蔵していた美術作品 44 作家 550 件を受贈することになりましたので、下記のとおり目録贈呈式を実施します。

目録贈呈式概要

- 日時：令和5年8月18日(金) 13時から
- 場所：滋賀県庁 知事室
- 出席者：日本財団 理事長 おがた たけしゅ 尾形 武寿 様
滋賀県知事 三日月大造
滋賀県立美術館 館長(ディレクター) 保坂健二郎

寄贈作品・作家の紹介

- 滋賀ゆかり作家 (10 名)
 - ①滋賀県出身、滋賀県拠点
鎌江一美、木村茜、澤田真一、芝田貴子、畑名祐考、藤野公一、吉川秀明
 - ②他府県出身、滋賀県拠点
伊藤喜彦(京都府出身)、滋賀俊彦(京都府出身)、村田清司(京都府出身)
- その他主な作家
石野敬祐、小幡正雄、齋藤裕一、舛次崇、
松本寛庸、八重樫道代



澤田真一 無題 2006~2007年
滋賀県立美術館蔵



鎌江一美 《かお》 2007年
滋賀県立美術館蔵



石野敬祐 《女の子》 2009年
滋賀県立美術館蔵



小幡正雄 無題(人生の並木道)
製作年不詳 滋賀県立美術館蔵

今後の予定

- 令和6年（2024年）4月から、お披露目の展示を開催予定。

背景・経緯

- 平成22年（2010年）にフランス・パリのアル・サン・ピエール美術館で、「アール・ブリュット・ジャポネ」展が開催されました。
- この展覧会では、滋賀を含む全国各地でその才能を見出された障害のある人や独学のつくり手たちの作品（63作家928件）が日本のアール・ブリュットとして紹介され、同展は12万人を超える観客を集め話題を呼びました。さらに、会期後日本に戻ってきた作品群による巡回展が、埼玉県立近代美術館ほか各地で開催され、逆輸入的に日本でもアール・ブリュットが注目を集めるきっかけとなりました。
- 国内外で高い評価を得た作品群であり、その後の適切な保存・活用が求められたことから、日本財団がこれを担うこととなり、協力を得られた出品作品をコレクションとして収蔵されました。
- このたび、日本財団から、美術作品のさらなる活用を図るため、当館に寄贈の打診をいただきました。当館は、国内の公立美術館で唯一、アール・ブリュットを作品収集方針の柱として掲げており、平成29年（2016年）に収集を開始してから、これまでに澤田真一、小幡正雄、塔本シスコなど作家18名による182件（寄託を除く）の作品を収蔵しています。
- 日本財団が収蔵していた美術作品は、2010年にパリで開催された「アール・ブリュット・ジャポネ」展に出品され高く評価されたものであり、当館の収集方針にも合致することから、寄贈を受け入れることとなりました。
- 今回の受贈により、当館のアール・ブリュット作品の収蔵数は731件となり、例えば、日本のアール・ブリュットの象徴的な存在と言える澤田真一氏の作品は24件にのぼるなど、質・量ともに、世界的に見ても有数のアール・ブリュットのコレクションを擁することとなります。